

# ~「親切、優しく、最後まで」の徹底個別サポート~

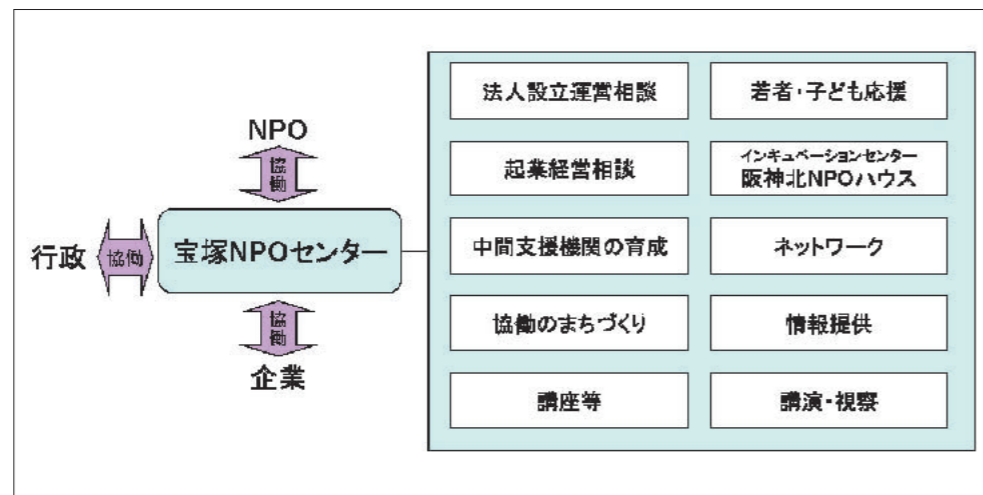
## 特徴・ポイント

- ・理事兼事務局長の行政・福祉関係・NPO等との幅広いネットワーク
- ・走りながら考える行動力、スピード
- ・きめ細かな徹底個別支援（NPO法人設立支援時）

## 事業概要

人材育成講座、市民活動啓発のための講演、NPO法人設立支援や運営相談、中間支援機関の育成、協働のまちづくり、NPOネットワーク作り、若者子ども応援、コミュニティビジネスのコンサルティング、ポータルサイト「関西ええこと.mot」を通じた情報提供等、多岐に渡るビジネスを展開中。

宝塚NPOセンターの事業概要



## 行政まかせにしないまちづくりに取り組む市民団体を支援する

阪神淡路大震災の4日前、事務局長の森さんは宝塚市から豊中市に引っ越しており、奇跡的に助かった。宝塚の前の家は全壊していた。当時、市の社会福祉協議会のボランティアセンターでコーディネーターをしていた森さんは、自分が死ぬことから免れたという思いもあり、「社会のために役立てないと」と震災現場に戻りボランティア本部を立ち上げた。震災時は市民全体が困っていた。しかしそれを助ける市民団体や活動がなかった。集まったボランティアや市民も、自分たちが決めたことを、市や社会福祉協議会に許可をとらなければいけなかったため動きにくかった。行政が一番大変な時に、市民があまりにも行政に頼り過ぎていた。当時森さんはアメリカのNPOについて知り、日本にも民間による活動が必要だと考えたという。行政任せにしないまちづくりに取り組む市民団体の活動を、効果的に支援し、NPOと行政・企業との協働関係を築いていく拠点として宝塚NPOセンターを設立する運びとなった。

## きめ細かい個別指導で信頼獲得

立ち上げ時のメンバーは3名。事務管理面が得意な山本さんとアルバイト。NPOとは何かがわからなかった。アメリカではNPOは毎日のように講座をやっていると聞き、自分たちでも講座を開催してみた。講座の中身は隣のサポートセンターのカリキュラムを参考にしながら、一般的な形でやったが、効果が上がらず1年で他の方法に変えた。

一人ずつ個別に話を聞いて要望をキャッチした方がいいと森さんは考えた。03年、市役所を辞めた方が入ってきて法人化を担当したことも転機になった。助成金の申請書の作成補助やきめ細かい個別指導で、「宝塚は親切」という口コミが広がった。「親切、優しく、最後まで」というのが宝塚NPOセンターの売り、と森さんは言う。



NPOツアーの様子

## 経営者でないと中間支援はできない

スタッフの半数は理事にしている。経営者の立場にいないと中間支援はできないというのが森さんの持論だ。今はいいスタッフを選べる状況にあるという。見極めてるのは熱意と仕事にける覚悟。「お金をもらったらええわ」ではなく、面白い仕事だから真剣にやってほしい。宝塚NPOセンターでは、毎年新しい事業をしている。「言ってくれないとわからない」というような人ではだめで、自分で事業を立ち上げられるかがポイントだ。「私よりできる人でないとだめ」と森さんは笑う。宝塚NPOセンターでは助成金なら金森さん。人間関係なら森事務局長というように「これだけは絶対専門家や」という強みを作ること。皆一つずつのスペシャリティを持っていて、その集団がチームで仕事を持っている。「中間支援団体に必要なスペシャリティとは？」という問いに対し、あくまで宝塚NPOセンターではという前置きをした上で、「NPO法人の法律に則った事務処理へのアドバイス」「理事会、総会決算の運営」「事業計画作成」「ネットワーク化」「リーダーとしてはスタッフの育成」等々を挙げた。

スタッフのスキルアップが私の望みと森さんは言う。ただ、うちで伸びなければ他に行ってもらおう。生きがい、やり甲斐を持ってやって欲しい。お金を取ってくれば、処分権は取ってきた人に付く。失敗して当たり前で「任せる」と森さんは言い切る。一見、放任のように見えて、森さんとスタッフの間は深い絆と信頼関係で結ばれているのだと感じられた。

団体名：特定非営利活動法人 宝塚NPOセンター  
 理事兼事務局長 森 綾子  
 住 所：兵庫県宝塚市  
 HPアドレス：http://www.hnpo.comsapo.net/weblog/myblog/156